

2024 年 8 月 8 日

小林製薬株式会社 2024 年 12 月期第 2 四半期 決算説明会 質疑応答要旨

Q：国内事業の 2Q は▲13%の減収だが、月別の推移を教えてください。今後の国内売上の回復見込みについて確認したい。

A：ばらつきはありますが、平均して前年比約 90%で推移しています。足元 7 月は回復基調にあると見ています。ただし健康食品は未だ前年比約 60%で推移しており、日用品等の販促に注力し、今後減収幅を縮小したいと考えています。

Q：2Q の利益増減要因について、「固定費」「その他原価」「人件費」の額が大きいですが、詳細を教えてください。

A：固定費については、中国合肥工場の新棟が稼働開始しており、償却費が増えています。「その他原価」には、紅麹関連の廃棄費用が含まれます。人件費は為替の影響がでていることに加え、昨年 M&A した Focus 社の人件費も純増しています。

Q：事業ポートフォリオの再編検討について、具体的に教えてください。通販とカイロが毎回苦戦している印象があるが、再編検討に含まれているのか？

A：カイロは季節に左右されますが、特に米国では主力製品であり、スポーツ観戦などでの使用シーンの拡大を図っています。これまでは米国ではカイロ主軸でしたが、M&A を通じて医薬品にも注力し、カイロだけに偏らないポートフォリオを検討しています。
通販については、現時点で決まっていることはありませんが、今後議論の対象にしています。

Q：国内の粗利について。2Q 売上ではヘルスケアが▲15.3%、日用品が▲1.6%で、粗利の高いカテゴリでのマイナス影響が大きいように見える。医薬品など「口にいれるもの」への風評被害はないのか？

A：粗利の高いカテゴリでのマイナス影響が大きいのは事実であり、食品や一部の医薬品では影響が見られていますが、口にいれる製品全般で影響が出ているわけではありません。

Q：決算資料 3 ページの紅麹コレステヘルプ等に関する事例数で、8/4 時点での「調査完了 21 名」に関しては、今回の補償の対象になっているのか？

A：調査完了 21 名については、「医学的な調査が終了した」という分類であり、この全てが補償範囲となる意味合いではありません。

Q：原因究明がまだ明らかになっていない段階で補償を開始することになった背景は？

A：これまでに厚生労働省や国立医薬品食品衛生研究所から発表された内容等を踏まえ、対象製品の摂取と腎関連疾患およびその他の症状の間に因果関係が認められるお客様を対象に補償を

開始させていただくこととしました。

また、相応の因果関係があると思われるプベルル酸を含む製品を摂取されたお客様に対し、早期に不安を解決する為にも、一日でも早く補償を行いたいとの思いから、補償開始を決定しました。

Q：取引先への補償などで、今後追加の費用が発生する可能性はあるか？

A：4月から順次個別対応させていただいております。現段階で見込まれるものについては2Qの特別損失にも計上していますが、今後の協議次第では追加になる可能性もあります。

Q：今後、再発防止策を出すかと思うが、これまでの製品開発フローやタイムラインが変更になる可能性はないか？

A：品質・安全を意識することで、製品開発フローに影響がある可能性もあると考えますが、製品品質強化のためであり、必要な対応だと考えています。

Q：従業員へのサポートは？小林製薬は従業員のアイデアを大事にしていたと思うが、士気が下がっているようなことはないのか？

A：従業員へのケアは非常に重要だと考えており、専門チームを設けて、全力でケアに努めております。経営陣からの情報発信・対話も積極的に行っております。社員の士気を高めることは今後の製品開発にも重要だと理解しております。

Q：国内事業は年内広告再開をしない想定だが、通期予想を見ると、下期の国内売上はそれほど下がらない計画であることが読み取れる。国内売상을キープするための施策は何かやっているのか？

A：広告停止による売上減少を補うために、小売店でのアプリ販促や店頭販促に注力しています。2Qの業績よりは悪化しない想定で通期計画を立てています。

Q：今年の春の新製品の売れ行きは？また、秋の新製品の状況はどうか？

A：計画通り・計画以上の製品がある一方、広告をかけられないことで苦戦している製品もございます。一部、インバウンドで人気が出ている新製品もあります。今年の秋も、春と同程度の新製品発売を計画しています。

Q：紅麹事案を受けて小売店と関係が悪化したり、小林製薬の製品を排斥する動きはあったか？国内・国際に分けて教えてほしい。

A：国内では、紅麹関連製品回収の発表当時は大きな混乱を招いてしまい、一部、店頭売上にも影響がありましたが、その後丁寧な対話を実施し、先方の理解を頂きながら、通常の店頭状況を獲得できるようになってきました。取引先の数などの影響は見られておりません。海外でも不買運動といったような動きはございません。

Q：インバウンドは国別割合に変化はあるか？

A：1Q 時点と変化なく、中国大陸・韓国・台湾地域で約 3 割ずつとなっております。

Q：インバウンドでは、紅麴関連製品の自主回収を受けても、人気ランキングがあまり変わっていないようだが、あまり影響は無いという認識か？

A：一部の製品に影響がありましたが、その影響は軽微だと考えています。

Q：新社長から見て、紅麴の件は様々なことが要因になっていると思うが、どこに一番問題があったと考えるか？

A：ガバナンス面だと思います。課題としては、意思決定における多様性の確保、同質性の排除、リスクマネジメント体制の再整備などありますが、今回の反省として、やはり何よりも「品質と安全を第一に考える」という意識を、更に高くしておかねばならないと思います。

Q：補償について、今後追加費用が発生するとしたら、どのような場合か？

A：原因究明が進み、新たな事実が判明し、補償カバー範囲が変わった場合に、費用が変わる可能性はあります。

Q：今後、補償カバー範囲が変わらなければ、特別損失は増えることはない、という理解でよいのか？

A：企業様向け紅麴原料の回収に係る費用や取引様への補償等はお話し合いなどを続けておりますので、今後追加になる可能性があります。

Q：今期の計画で、国内の広告は再開せず、海外の広告は再開するのか？

A：中国大陸は 8 月より広告を再開しておりますが、国内の再開時期は未定です。

Q：オアシス・マネジメントとどのような対話をされているのか？

A：オアシス・マネジメント様が当社株主であることは承知しております。そもそも、機関投資家との個別の面談の内容については、各社においてそれぞれのお考えもありますので、こういった投資家の方とこういった内容の面談をしたかについては、従前より当社では公表していません。

Q：下期は日用品・ヘルスケアでどのような計画になっているのか？

A：国内の日用品は前年並み、ヘルスケアは減収で下期の計画を立てています。

Q：決算資料 32 ページの期初想定との主な差異で「その他」に含まれる、為替影響、廃棄費、物流費について詳しく教えてほしい。

A：為替の影響は 5 億円ほどの影響で見えています。廃棄については、期初想定から 6 億ほど増やしており、物流費については、現状を鑑み、改めて算出し、計上しております。

Q：来期は工場の稼働等あるが、償却費はどれくらい増える予定か？

A：為替の影響で多少前後する可能性もありますが、当初想定では 10 億円ほど増える予定です。

Q：国際の 2Q の営業利益について、例年に比べて赤字が拡大しているのはなぜか？

A：償却費負担の大きい Focus を連結したことや、円安で海外の償却費負担が増加したことなどが主な要因です。

Q：紅麹関連製品の回収の影響は海外では出ているのか？

A：中国大陸では広告停止の影響がありましたが、今月から広告を再開していますので、今後は回復していくものと見ています。それ以外の国・地域では大きな影響を受けることなく順調に推移しています。

以上

【注意事項】

本資料に記載されている内容は、説明会での質疑応答内容をそのまま書き起こしたのではなく、当社の見解により加筆・修正等を加えて要約したものであり、その情報の正確性・完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがございます。なお、業績見通しや将来予測に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な不確定要因により大きく異なることがある旨、ご了承ください。